

どうして滅びるのでしょうか？

イザヤ書 14章22節～23節

主題；虐げる者は滅び、その抑圧は終わった/バビロンの滅亡は、イスラエルにとって抑圧の終焉を意味した。万軍の主がこれを成し遂げられた！

導入

バビロニア帝国の首都バビロンは、今日のイラクの首都バグダッドの南、ユーフラテス河畔に位置していました。今日観光客が訪ねると、ただの瓦礫の山となっていて、見るべきものがないとってがっかりするそうですね。発掘調査から、バビロンは当時、50以上の神殿があって、多神教の偶像崇拝が行われていたようですが。ペルシャによって倒壊したバビロンは、人の住まない石の山となってしまいました。13章19節に、人の住まないところとなり。とあるとおりです。

バビロンの全盛期をもたらしたネブカドネザル王は、「この大いなるバビロンはわたしがきずいたものではないか」と豪語したとダニエル書(4:30)に記されていますが、その難攻不落の都市、栄華をきわめたバビロンも、紀元前539年にペルシャ軍によって陥落しました。バビロンが滅ぼされたのは、滅びたのは、神の民イスラエルを虐げていたことに神さまが終止符を打たせるためでした。それはまた、エルサレムを攻撃して、支配することで、神の権威を侮ったから、自ら神のようになろうとしたからでした。

虐げる者は滅び、その抑圧は終わります！バビロンの滅亡は、ペルシャ帝国によって実現したと歴史は語っていますが、それを現実のものとしたのは、万軍の主でした。それは、イスラエルにとっては、バビロンによる抑圧の終焉を意味しました。

本論1 どうして滅びるのでしょうか？ — 虐げる者は滅びる

今日のメッセージのタイトルは、どうして滅びるのでしょうか？ですが。聖書は、虐げる者は滅びる。と語っています。虐げるというのは、むごい扱いをする。ということですね。今日でいえば、クーデター以降のミャンマー軍の同胞への惨い仕打ちが、虐げる実例となっていますね。

バビロンの王は、諸国民を容赦なく虐げていました。世界を荒れ野に変え、町を破壊し、人々を家に返すことをしなかった。しかも、自らの民を殺戮していたと6節や20節には記されています。

この滅びる、というのは、彼らの武器が折られたことを指すのですね。無力にされたということです。彼らの高慢が、よみに落ちたことを言っているのですね。そして、その極めつけは、断ち切られるというのですね。

これらは、すべて主がイスラエルをあわれまれて、彼らの地に再び彼らを住まわせようとされたからですね。主がイスラエルを苦しみと悩みと負わされた厳しい労役から解き放とうとされたからでした。

本論2 どうして滅びるのでしょうか？ — 神のようになろうとするから

どうして滅びるのでしょうか？それは、神のようになろうとするからですね。バビロンの滅亡を取り上げている訳ですけれども、バビロンというのは、バビロニア帝国の首都にあたりますが、冒頭でも申し上げたように、場所で言うと、メソポタミア、チグリス・ユーフラテス川、今日のイラクあたりになりますね。バビロンという呼び方は、英語のつづりによるわけですが、旧約聖書の原語ヘブル語では、バビロンとバベルは、全く同じことで、バーベルといいます。神のようになろうとした！ということですね。

わたしのほかに神はいない！という聖書の視点から、自分が神のようになろうとする者の辿る道が、滅びであることは必然です。

主は、万軍の主は、仰せになります。「私は、彼らに立ち向かう。」

結び

虐げるというのは、虐待するということでもありますね。2021年に入ってオンラインで開催された断食祈禱聖会で、虐待と家庭形成というテーマで、講演の依頼を受けました。わたしは、そのような機会を与えていただいた際には、必ず、「上野の森キリスト教会から主に在って皆さまにご挨拶を申し上げます。」と冒頭で述べることにしていますが。児童虐待防止法が施行されて20年。報告される虐待件数は、20年前の9倍となっています。昨年など、一番多いのは、心理的虐待、次いで身体的虐待、育児放棄、性的虐待となっているようです。中高生が2割、小学生が3割、未就学児が4割となっています。

母親によるものが過半数で、父親と合わせると9割が親による虐待となっています。なぜ、親がわが子を虐待するのでしょうか？虐待する理由など本当はどこにもないはずですが、自分が抑えきれない。その抑圧は終わりを告げなければならない。ですから、主なる神さまは、万軍の主となって、立ち上がるのですね。

5年がかりで66章から成るイザヤ書を学ぶ会の2年目が終わって、21章までなんとか辿らせていただきました。コロナ禍でもちょっとずつ前に進んでいます。育むというのは、大事に育てるという意味だそうですね。神さまが、ご自身の民、イスラエルをこよなく大事に育ててきたのに、彼らはわたしに背いた。という出だしで始まるイザヤ書は、さながら、子育ての苦労を経験する親の心境を神さまが吐露されているようで。ですから、子育てが大変だということを神さまも体験して認識しておられるわけですね。その神さまが、わが子イスラエルを抑圧しているものに終わりを告げさせるために、立ち上がるとおっしゃっておられるのですね。

わたしたちには、主なる神さまは、どのように立ち上がってくださるのでしょうか？

それは、わたしたちの痛みを負ってくださるんですね。わたしたちの背きのために刺し貫かれました。打ち砕かれました。主が受けた傷によって、わたしたちはいやされるのですね。イザヤ書53章7節（8節1行目まで、と12節の最後）にはこうあります。

「. . . 。」

今朝は、イザヤ書14章の22節、23節に注目させていただいていますが、「わたしは、彼らに立ち向かう」と万軍の主は言われる。「バビロンから、その名も、名残（なご）りも 子孫も末裔も、すべて断ち滅ぼす」断ち滅ぼすと訳されたことばは、実は、カット オフ、何々を何々から切り離すと言われる主は、いと高き方のようになろうとした者が辿り着くよみへとくだられたんですね。そこに彼らを訪ねられ、そこからよみがえられました。彼らをその末裔に至るまで、バビロンから断ち切るためです。

神の裁きは、滅びから断ち切ることだからです。わたしたちを滅びから断ち切るために、よみにまでくだられたお方をわたしたちは、礼拝します！アーメン！